

ケアリングの再編——地域における家族と福祉——  
Keywords : 高齢者介護、ケアリング関係、家族支援、地域福祉

◆略歴

宮城県出身、博士（社会科学、お茶の水女子大学）

日本学術振興会特別研究員（DC2、RPD）、島根県立大学総合政策学部准教授などを経て、2020年より近畿大学総合社会学部に着任。

◆研究概要等

ケアをする人される人、双方とも犠牲にならないようなケアリング関係は現代社会においてどのように実現されるのでしょうか。

私は大学院在学中から高齢者介護におけるケアリング関係に関心を持ち、国内外での調査に基づいた研究を行っています。

■研究テーマ等

1. 家族・サービス提供者・高齢者のケアリング関係に関する調査研究

2000年代前半は宮城県で高齢者・家族介護者・サービス提供者を対象とした半構造化インタビューと参与観察の調査を行いました。この調査結果から、訪問入浴サービスの事故を契機とした多職種連携の問題構造と利用者への影響、および家族介護における夫婦関係の閉鎖性を改善するようなサービス提供の特質を明らかにしました（論文・著書・表彰等1）。

その後、調査フィールドを関東に移し、東京都で高齢者・家族、ヘルパー、ヘルパーの所属組織の代表への半構造化インタビューを行います。調査研究のうち高齢者のデータの分析をもとに、ケアリング関係の中でニーズが生成されるプロセスおよびケアを受けることの経験と意味づけを

社会・マスメディア系専攻  
准教授

さいとうあきこ  
齋藤暁子

a-saito@socio.kindai.ac.jp



<http://researchmap.jp/saiaki>

明らかにしました（論文・著書・表彰等2、3）。さらに、高齢者の認識だけでなく、かれらにケアを与えるヘルパーとのペアでの分析、ヘルパーの所属組織の分析を追加して、単著として出版しました（下写真、論文・著書・表彰等4）。



## 2. 高齢者ケアの国際比較研究

ノルウェー人研究者と共同研究を行い、自治体中心のノルウェーと多元化の日本とのヘルパーの労働状況および労働の範囲、規範などを比較しました。

また、笹谷春美先生を中心とするケアリング研究会に所属し、フィンランドでの家族介護支援団体および自治体へのインタビュー調査を行いました。フィンランド調査の成果をふまえ、ケアリング研究会として日芬の国際比較セミナーを開催しました。

## 3. 中山間地域における家族／福祉の検討

島根県立大学着任後は、包括的なシングルペアレント事業の調査に着手し、自治体担当者および制度利用者へのインタビュー調査をから当事者の視点から制度を評価しました。

さらに社会調査実習として浜田市と協同し、子育て支援センターの利用者調査（質問紙調査、インタビュー調査）を実施しました。この調査結果は浜田市に還元しその後の子育て支援策の基礎資料として活用されました（論文・著書・表彰等 5）

### ●論文・著書・表彰等

1. 齋藤暁子 2007「高齢者・家族・サービス提供者の相互関係分析——夫婦間介護におけるサービス＜受容＞のプロセス」『社会政策研究』7:176-196.
2. 齋藤暁子 2008「高齢者のニーズ生成のプロセス——介護保険サービス利用者の語りから」上野千鶴子・中西正司編『ニーズ中心の福祉社会へ——当事者主権の次世代福祉戦略』、医学書院 70-90.
3. 齋藤暁子 2012「受ける側からみる「介護」——ホームヘルプサービスを利用する高齢者の語りから」三井さよ・鈴木智之編著『ケアのリアリティ——境界を問い直す』法政大学出版 107-135.
4. 齋藤暁子 2015『ホームヘルプサービスのリアリティ——高齢者とヘルパーそれぞれの視点から』生活書院
5. 一般財団法人 社会調査協会 第九回『社会と調査』賞受賞（2019年、対象論文「社会調査実習におけるアクションリサーチの成果と課題」 『社会と調査』第22号）

### ▲趣味等

1. 水族館：子どもと一緒に行くようになり、水族館の良さを再発見しました。地域によって生き物が異なっていたり、緻密な研究成果をわかりやすくプレゼンテーションしていたり、どの水族館も興味深いです（右の写真は沖縄の美ら海水族館です）。
2. 日本酒：島根の「李白」と青森の「田酒」がお気に入りです。



### ◆ゼミの宣伝等

家族や福祉のテーマ（地域の高齢者／障害者福祉、家族の多様化、子育て支援策、セクシュアル・マイノリティなど）を中心に研究していくゼミです。文献講読や調査方法の習得など基礎的な力を身につけたのち、ゼミ生はそれぞれ自分の関心のあるテーマを決め、卒業研究に取り組んでいきます。自分の力で一つの研究を仕上げていくのは大変な作業ですが、真摯に取り組むことで得られるものも大きいです。ゼミを通じて、大学時代の醍醐味でもある主体的に学ぶことの楽しさを感じて欲しいと思います。